

巻 頭 言

前雑誌「数学」編集委員長・埼玉大学大学院理工学研究科
福井 敏純

2004年に国立大学は国立大学法人になり、11年の月日が経過した。この辺りで国立大学法人化はどのような影響を及ぼしたのか、俯瞰してまとめる論考が現れないかと思っていた処、所属の学部長から「運営費交付金削減による国立大学への影響・評価に関する研究」と題された文書を教えてもらった。国立大学協会政策研究所長の豊田長康氏の論考である。2015年5月の公開であるから旧聞に属する方も多いと思うが、少し紹介しよう。

- 2002年頃から、主要国の中で唯一日本だけ論文数が停滞～減少し、2012年時点で5位となっている。2013年人口あたり論文数は世界35位。
- 学術分野の違いにより、その動態に違いがあるが、国際競争力の高かった分野ほど論文数の減少～停滞が著しい。
- (論文数データで見る)日本の大学間傾斜は海外に比較して急峻であり、大規模大学への重点化(選択と集中)はすでに十分になされている。
- 単に大学あたりの論文数が少ないことを評価指標として、中・小規模大学の研究費を上位大学に移すような重点化政策(選択と集中)は生産性を低下させ、わが国全体の研究面での国際競争力の低下を招くと考えられる。

読む限り日本に於ける研究の将来は明るくない。法人化前の国立大学を知る身としては、法人化について漠然と感じてきたことを、明瞭に書いてくれた思いである。他にも興味深い事が色々書かれているので、ぜひオリジナル*1を見て欲しい。唯、交付金削減が上記の事の主犯かという点、そうとばかりは言い切れない面もあるように思う。同時に起こった、国立大学の教員数の減少(特に若手研究者がつける職が減った)の影響が大きいと考えるのが適切かもしれないし、交付金をもとに戻せば解決する問題と判断するのも安直な気がする。ただ、国立大学の法人化をこれから行おうと検討している国の行政関係者は、法人化は研究の活性化をもたらさないと思いたくなるだろう。

論文は量より質が大切で、論文数を研究レベルの指標のように扱うのは違うのではと、仰る向きもあろう。しかしながら、個別の研究の評価ではなく、国全体で見れば、論文数は研究者の研究時間の総和によく比例すると思われ、こういった数字は、研究に費やされているその国のマンパワーをよく表していると思うのである。

*1 検索エンジンで題名等を入力すると探せる。

またこれらは全分野を見ての話であり、数学の研究はまた別だというのはわかる。実際探してみると豊田長康氏のブログに数学の研究に関するデータもある。2014年07月12日の記事がそれで、次のように書かれている。

- 数学分野では、論文絶対数では中国が米国に追いつき、追い越している。日本は7位である。人口あたり論文数では、日本は他の諸国よりも一線を画して低い値であり、韓国にも引き離されている。

読んでも元気は出ないが、2000年からの論文数（3年移動平均値）のグラフが掲載されていて、日本は1000台/年で微増であり、逆境の割には頑張っていると見れなくもない。

お金をかけることが研究成果に直結する分野もあり、他分野の人と話していると、研究とは頭でなくお金を使う事であると思わされることもある。数学の研究にも資金はいるが、大きな資金が必要なことは少ないと思う。一方、研究時間の確保に苦労している数学者は多いと思うが、彼らはそういったことには頓着しないようにも見える。お金がない時こそしっかり時間を確保して基礎学問をやろうというアピールが出来ないだろうか？

日本は少子化で人口減少が始まり、全体で見れば大学の規模は縮小していかざるを得ないと仰る方も多い。国立大学の中期計画も来年度は第3期に入り、交付金は3割減がデフォルトになるとの無謀な話も聞こえてくる。研究だけではなく教育にも影響が出るのではないかと心配している。我々は何処に行こうというのだろうか？

背景には日本の財政の危機的状況（国債発行残高が経済規模の2倍を超える）がある。本稿を書いている7月上旬に、ギリシャが事実上債務不履行で銀行閉鎖、とニュースが伝えた。ギリシャで起こっている事は人ごとではない。世界から信頼されなくなれば将来の日本で起こるかも知れない。

数学者ができる事は何だろうか？ やはり専門性を生かして数学に絡んだ何かで貢献するというのが自然だろう。それには良い研究をし、良い教育をし、良い原稿を残すというのが決定的に重要と思う。良い原稿は若い才能を惹きつけるし、分野間の交流の契機を創り出すかもしれない。日本語での良質の入門的原稿が増えればそれが日本の強みになる。研究の先端を俯瞰する良質の日本語原稿を出版するのが雑誌「数学」の役回りであろう。雑誌「数学」の編集委員長の任期中は、こんな事を意識して行動していた。

全体の教育レベルが平均的に高いのが日本の強みだと、聞いたことがある。その時代の数学者達もそれに貢献したのだと想像する。ボトムのエデュケーションレベルが高ければ全体の技術レベルも上がるという訳であろう。この強みは過去のものだと思いたくない。そのために数学者の社会における存在感も大事だと思ったりするのである。